



# 開学30周年 記念事業の概要

2面

## 自然電力(株)と覚書締結

4面



模擬店



屋外ステージ



体育館ステージ



文化講演会



屋内イベント

## 見えてきた課題と自信—学外実習

3面

## 高校生英語スピーチコンテスト

3面

2023  
紅翔祭

## CONTENTS

2・3面

SKYサマーセミナー 3大学合同開催  
教員の活動

4面

新潟市とSDGs親子セミナー共催  
国際学会ICoME2023で論文発表

「漢語橋」

中国語スピーチコンテスト入賞



NUISホームページ  
https://www.nuis.ac.jp  
(スマートフォン対応)



Facebookページ  
https://www.facebook.com/nuis.face



Instagram



X(旧 Twitter)  
@nuis\_nabbit



YouTube  
公式  
チャンネル



開学30周年  
記念事業  
開催のお知らせ

各シンポジウムの申込方法など詳細は本学ホームページをご確認ください。

1956年生まれ、文芸評論家。新潟市出身。成城大学経済学部卒。児童書の編集者を経て、1994年、『妊娠小説』で文芸評論家としてデビュー。朝日新聞書評委員、文藝賞選考委員などを務め、2008年4月、2012年3月朝日新聞の文芸時評を担当。著書多数。

講師  
斎藤 美奈子  
(さいとう・みなこ)

## 講師プロフィール

講師  
武田 砂鉄  
(たけだ・さく)

1982年生まれ、フリーライター、ラジオパーソナリティー。東京都東大和市出身。成城大学経済学部卒。時事問題やノンフィクション書籍の編集者を経て、執筆活動に入る。2015年、『紋切型社会』で第25回Bunkamuraドゥマゴ文学賞などを受賞。著書多数。

ことばの使い方が荒れてきているように感じます。相手の揚げ足を取ったり、関係のない例を持ち出して反論したふりをしたりする。まるで「論破ごっこ」です。この悲惨な現状を少しでもよくするための「世界の語り方」について、ことばの専門家である斎藤美奈子さん(文芸評論家)、武田砂鉄さん(フリーライター)のお二人を講師にお迎えし、自由に討論していただきます。会場との質疑応答も予定しています。司会・コディネーターは本学学長の越智敏夫が務めます。本学学生、教職員はもちろん、一般市民の参加も歓迎します。

公開  
討論会世界の  
語り方

12月2日(土)

14:00~16:00

だいしほくえつ  
ホール

参加無料・先着250名

## 経営情報学部

## シンポジウム

科学と  
AI機械学習教育と  
生成AIの未来像  
ヒトはAIを  
制御できるか?

11月23日(木・祝)

9:00~17:00

新潟国際情報大学  
新潟中央キャンパス

参加無料・対面先着200名

オンライン参加可能

【午前の部】  
9:00~12:00

## 大学における機械学習・AI教育

09:10 14回のハンズオンによる  
09:50 AI実践教育:「人・AI協働」の入口に立つ

南雲 彩花 (BSNアイネット技術開発部)

09:50 学部生必修のデータサイエンス・  
10:30 AI教育動向整理

齋藤 裕 (新潟大学ビッグデータ・AI研究センター特任准教授)

10:30 AI教育のためのゲームプログラミング  
11:10

中田 豊久 (本学経営情報学部准教授)

11:10 長岡技術科学大学における  
11:50 学部・修士一貫教育を見据えたAI技術の教育

湯川 高志 (長岡技術科学大学工学研究科教授)

【午後の部】  
13:00~17:00

## AIと科学 機械学習と生成AIの未来

13:00 【基調講演】ブラックホール観測と機械学習  
14:00

本間 希樹 (国立天文台水沢VLBI観測所所長・教授)

14:00 Neuro92 (1995) から  
14:40 生成AIの開発 (2023) まで

藤田 晴啓 (本学経営情報学部長)

14:40 CycleGANsを応用した文化財の画像復元  
15:20

河野 一隆 (東京国立博物館学芸研究部長)

15:20 ChatGPTの生成技術と社会への影響  
16:00

市川 健太 (BSNアイネット技術開発部マネージャー代理)

16:00 超知能と人間の架け橋としてのヒト脳型AI  
17:00

山川 宏 (全脳アーキテクチャ・イニシアティブ代表)

国際学部のシンポジウムは3月に開催します。次号(1月発刊)で詳細をお知らせします。

## 3) 競争的資金獲得研究

内田 亨(経営学科・教授)

- ・(2023年4月より新規~2027年3月) 日本学術振興会基盤研究C一般「衰退産業における新たな成長戦略としての持続的成長モデルとイノベーションの探究」研究代表者
- ・(2023年4月より新規~2026年3月) 日本学術振興会基盤研究C一般「A comparative study on subjective well-being in organizations: How to nurture, share and leverage positive emotions in a remote work environment」(邦訳:組織における主観的幸福感の比較研究: リモートワーク環境でポジティブな感情を育み、共有し、活用する方法) 研究分担者

小宮山 智志(経営学科・准教授)

- ・(2023年7月より新規~2024年6月) 公益財団法人かんば財団令和5年度調査研究助成「コロナ禍の経験によるウェルビーイングの意識変化の解明」個人研究

## 4) 委員・社会的活動・記事・その他

内田 亨(経営学科・教授)

- ・(2023年5月31日) 『ちょっとGlobal 新潟から世界へ』 経営学科 内田ゼミ作成 (<https://www.nuis.ac.jp/29066-2/>)
- ・(2023年6月8日より継続~2024年6月7日) 新潟県生産性本部常任理事

小林 伊織(国際文化学科・准教授)

- ・(2023年6月10日~7月15日) 公開講座「Taiwan's New Leaders: Global Voices 台湾のニューリーダーから学ぶ英語」(新潟国際情報大学社会連携センター)

小宮山 智志(経営学科・准教授)

- ・(2023年8月7日より新規) 佐潟周辺自然環境保全連絡協議会 座長

佐藤 泰子(国際文化学科・講師)

- ・(2023年5月27日~7月29日) 「新潟の隠れた宝・魅力を『英語』で発信 ~おもてなし英語とその実践~」(新潟国際情報大学社会連携センター)

藤瀬 武彦(経営学科・教授)

- ・(2023年8月10日~12日) 第45回北日本学生陸上競技対校選手権大会 副大会長(弘進ゴムスリートパーク仙台)

藤田 美幸(経営学科・准教授)

- ・(2023年5月1日~新規) 新潟市西蒲区新庁舎基本構想検討会議 委員(座長) (新潟市)
- ・(2023年9月1日~3日) 地域活性化学会 第15回研究大会 大会実行委員会委員 (芸術文化観光専門職大学)
- ・(2023年9月より新規~2024年8月) 地域活性化学会 第8期理事

山田 裕史(国際文化学科・准教授)

- ・(2023年5月より新規~11月) 「2023年カンボジア総選挙: ポスト・フン・セン時代に向けた集団的権力継承」研究会主査(アジア経済研究所)
- ・(2023年5月11日) 『毎日新聞』朝刊「カンボジア ポル・ボト死去25年」にコメント掲載
- ・(2023年6月27日) 『日本経済新聞』電子版「カンボジア独裁首相、秒読み『権力世襲』への用意周到」にコメント掲載
- ・(2023年7月) 7月12日付『中国新聞SELECT』、7月23日付『朝日新聞デジタル』、同『日本経済新聞』(電子版)、同『NHKニュース』(NHK NEWS WEB)、7月24日付『読売新聞』、同『新潟日報』など地方紙12紙、7月27日付『朝日新聞』にカンボジア総選挙に関するインタビュー記事とコメント掲載
- ・(2023年8月) 8月21日付『朝日新聞デジタル』、8月23日付『毎日新聞』、8月27日付『朝日新聞』、8月28日付『信濃毎日新聞』(夕刊)、8月30日付『中国新聞SELECT』にカンボジア新政権に関するコメント掲載
- ・(2023年8月より新規~2024年3月) 「アジア諸国の動向分析」研究会委員(アジア経済研究所)



今回のテーマは「How could social media be used to attract more residents to Niigata?」です。県内の高等学校

## 最優秀賞に金小童さん

(開志国際高3年)

審査の結果、最優秀賞に開志国際高校3年金小童さん、写真、優秀賞に上越高校1年小林詩さん、同校2年武藤ミコジエさん、審査員特別賞に巻高校2年吉田彩花さん、開志国際高校1年李禹霖さんが選ばれました。

次回以降も、コンテストを通して高校生の英語レベル向上と、新潟県の国際化への発展につなげていきたいと考えています。

(国際交流委員長 安藤篤也)

## 高校生英語スピーチコンテスト

本学主催の「第9回新潟県高校生英語スピーチコンテスト」が7月23日、本校みずき野キャンパスで開催されました。このコンテストは、英語を学ぶ

11名の生徒が参加。38人の聴衆が耳を傾ける中で、ハイレベルな英語スピーチが行われました。

審査は、テーマの適切さ、発音、視線、表情、ジェスチャー、質問の理解度と回答の確さなどによる総合的な評価で行われました。

校・中等教育学校5校から

## BSNアイネット

私は8月17日から10日間、BSNアイネット(本社・新潟市)の学外実習に参加しました。今回参加した実習では、システム開発の演習やデータ分析、事業紹介、座談会があり、最終日には発表が行われ、とても充実した内容でした。

## 見えてきた課題と自信

システム開発で達成感味わう

特に私が学び感じたことは、SEM(システムエンジニア)に求められる能力についてです。演習では他大学のインターンシップ生と協力してWebアプリのプロジェクトを完成させたことで、チームでのシステム開発における大変さや達成感、コミュニケーションの大切

また、最終日に行われた報告会では、資料作りや演習を通して自己分析の発表を行い、着眼点や長所・短所について



事業紹介を受ける古室さん(中央右)と参加学生たち

コミュニケーションの大切さを学びました。これらの経験を今後の大学生活と就職活動に活かしていきたいです。

(情報システム学科3年 古室俊来)

## SKYサマーセミナー

3大学合同で開催

本学と新潟青陵大学、新潟薬科大学の3大学合同による「SKYサマーセミナー」が、8月30日に新潟青陵大学で開催されました。今年度は「公務員」を軸に進路を考えてもらうためのセミナーを実施し、20名の学生が参加しました。

セミナーの前半では公務員試験の概要や試験対策方法の講義、後半では人物試験を想定したグループワークに取り組みました。グループワークに初挑戦の学生が多い中、メンバーで協力しながら意見をまとめ上げていました。

今後キャリア支援課では学生の希望する進路実現に向けた企画を実施していきます。

(キャリア支援課)

## 教員の活動(本人申告による)

### 1) 研究論文・図書

小林 伊織(国際文化学科・准教授)

・(2023年5月) "From a Foreign Language to own Language: Resolving Conflicts Over English Education in Japan." Asian Englishes, Taylor & Francis, Vol.25, No.2 (234-247)

藤本 直生(国際文化学科・准教授)

・(2023年7月) Fujimoto-Adamson "From JTE to team-teaching researcher: Autoethnographic reflections." Team Teachers in Japan: Beliefs, Identities, and Emotions, Routledge, Vol.3 (32-43)

山田 裕史(国際文化学科・准教授)

・(2023年7月) 山田裕史、新谷春乃「安定的な世襲の実現に向けて——2023年カンボジア総選挙」『IDEスクエア——世界を見る眼』アジア経済研究所 (12頁)  
・(2023年8月) 山田裕史、新谷春乃「世襲環境が整う——2023年カンボジア総選挙」『IDEスクエア——世界を見る眼』アジア経済研究所 (11頁)

### 2) 学会・研究会・講演等

今井 裕紀(経営学科・講師)

・(2023年9月2日) 「主観的アンダーエンプロイメントの測定：日本語版尺度の信頼性と妥当性の検証」産業・組織心理学会第38回大会(静岡県立大学)

木村 誠(経営学科・教授)

・(2023年6月17日) 「生成系AIを用いたVensimモデルからJulia コードへの変換」JSDカンファレンス2023(専修大学・神田校舎)

小林 伊織(国際文化学科・准教授)

・(2023年9月2日) "CLIL, EMI or Mandarin+? Taiwan's Path Towards a Bilingual Nation."

NEAR Conference 2023(新潟県立大学)

佐藤 泰子(国際文化学科・講師)

・(2023年8月16日) 1) Yuka Aizawa "The Current Status and Issues of Inbound Business in Japan with after the Virus: New Challenges for Niigata Prefectural Tourism Content Development by NUIS Students." 2) Ayaka Aoki "What Makes Two East Asian Countries Make or Break their English Education?" 3) Ichi Konta "Exploring Effective Paraphrasing Techniques in Higher Institutions: Putting Theory into Practice Without Generative AI." The 21st International conference for Media in Education (Wenzhou University)

藤瀬 武彦(経営学科・教授)

・(2023年8月30日～9月1日) 「一般女子学生及び女子学生競技者における筋力評価尺度としてのバーベル挙上能力について—ウエイトトレーニングの三大基本種目の1RM合計重量による評価—」日本体育・スポーツ・健康学会第73回大会(京都市・同志社大学)

藤田 美幸(経営学科・准教授)

(2023年9月1日～3日)  
・「まちあるきが健康消費行動に与える影響: Well beingの視点からの一考察」藤田美幸、須賀由紀子、土屋薫  
・「大学生を起点とするまちあるきによる循環型社会関係資本形成モデルの開発」須賀由紀子、土屋薫、藤田美幸  
・「オンラインまちあるきによる関係人口創出の試み」土屋薫、須賀由紀子、藤田美幸  
地域活性学会 第15回研究大会(芸術文化観光専門職大学)

山田 裕史(国際文化学科・准教授)

・(2023年7月15日) 山田裕史、新谷春乃「2023年総選挙を控えたカンボジア政治：最大野党の排除と人民党の世代交代」第17回日本カンボジア研究会(早稲田大学・オンライン)  
・(2023年6月18日) 「国連暫定統治後のカンボジアにおける非民主化と権威主義強化」日本比較政治学会 第26回大会(山梨大学)



## 自然電力(株)と覚書締結

本学と、再生可能エネルギーによる発電事業などを業務とする自然電力株式会社(本社・福岡市)の



越智学長(写真左)と瀧口代表理事(写真右)

包括連携に関する覚書締結式が、7月21

日に本学で行われました。

2011年に設立された同社は「青い地球を未来につなぐ」の理念を掲げ、太陽光・風力・小水力等の再生可能エネルギー発電所の開発などを手掛けています。これ

ともあり、両者が連携することで、若い世代や地域社会に向けた新たな企画提案や情報発信を行い、新潟県のさらなる発展に貢献できると意見が一致し、包括連携へと至りました。

締結式では、越智敏夫学長が包括連携の意義や可能性について述べ、続いて同社を代表して執行役

## 学生・社会人向けの寄付講座も

までにグループとして国内外で1ギガワット以上の再生可能エネルギーの発電事業に携わってきました。また、地域開発にも力を入れた。地域コミュニティと一体となった事業を展開しています。

本学が地域に根付いたプロジェクトを学生主体で実践しているこ

員の瀧口直人氏が「地方活性化のための人材育成」や「営農型太陽光発電」など、本県での活動について基本方針を説明しました。今後は人材育成や地域連携をテーマにした本学学生、社会人向けの寄付講座(全3回)を10月、11月と来年2月に開催します。

## 新潟市と親子セミナー共催

本学は夏休み中の小学生を対象にしたイベント「SDGsマスターになろう!」を7月30日に、本校みずき野キャンパスで開きました。本学は令和4年に新潟市とSDGs達成に向けた連携協定を結

んでおり、今回はSDGs普及啓発イベントとして新潟市と共同開催しました。

## 目指せSDGsマスター

イベントには、合わせて45名の小学生と保護者が参加して、キャンドル作りやボードゲームに挑戦しました。小グループに分かれた小学生たちは、学生に指導されながら思い思いの色のロウソク材料をカップに詰め、真剣な表情でキ

ヤンドル作りに取り組みました。ロウソク材料は、民間の仏具販売業や冠婚葬祭業の福宝、JALライフ新潟、アーケクラブ迎賓館新潟から提供してもらった使用済みロウソクを再利用したものです。

続いてSDGs学習ゲーム「Get The Point」を体験しました。最初のゲームはグループの中で「誰が一番高得点を取るか」、次のゲームは「参加者全員で目標の点数を取るか」というルールで行いました。ゲームを継続する工夫や、他のプレイヤーと協力することが重要で、その経



学習ゲームをする本学学生と小学生

験がSDGsへの理解を深め「持続可能性」を学ぶきっかけとなりました。最後に参加した小学生たちは、でき上がったキャンドルと「SDGsマスター」の認定証を受け取りました。

私たち、佐藤泰子研究室は、8月16日から18日まで中国の温州大学で開催された国際学会「The 21st International Conference for Media in Education (ICoME 2023)」に参加しました。

本学会は、日本教育メディア学会(JAMES)、中国教育工学会(CAET)などが連携する国際学



中国での国際学会に参加した佐藤泰子研究室メンバー  
左から今田さん、相澤さん、青木さん、佐藤先生

会で、当研究室では毎年、発表をしている実績があります。今回本学から参加した4年生の3名(今田壱、相澤裕花、青木綾香)は提出論文の査読を経て、本学会に正式に招聘され、英語で発表をする機会を得ることができました。

私は「大学の基礎英語教育における効果的なパラフレーシングの探求…生成AI使用前の理論と実践」について発表を行い、ラウンド・テーブルセッション発表者の上位20%に与えられる「Young Scholar Award」を受賞しました。

## 国際学会 ICoME2023で論文発表

海外ということもあり、不安がありました。学会への参加を通して多くのことを学びました。今後も国際舞台へ積極的に挑戦していきたいです。

## 国際学会

(国際文化学科 4年 今田壱)

## 「漢語橋」世界学生コンテスト

霜鳥仁さん 橋本佳樹さんが入賞



写真左が霜鳥仁さん、右が橋本佳樹さん

全日本大学生中国語スピーチコンテスト東北・北海道ブロック予選が5月27、28日に札幌大学で開かれました。「漢語橋」は中国語を学ぶ世界の大学生にとって重要なコンテストで、中国と世界の若者を結びつけ橋となつていきます。本学から国際文化学科3年の霜鳥仁さんと橋本佳樹さんの2名が出場し、霜鳥さんは第2位に入賞、橋本さんは優秀賞に選ばれました。

世界大学生コンテスト日本予選を兼ねた

「漢語橋」